

# 東白川村 美しい村づくり 委員会

## 第61回

- 場 所：五加交流サロンほほえみ
- 時 期：令和4年5月18日 19:00~21:00
- 参加者：委員4名 一般6名 行政担当3名
- 新型コロナ対策を実施して開催しました。

## 第1 村長挨拶

委員会は6年目を迎え、本日61回となりました。

委員会には、皆さんと直接対話ができる場として、可能なかぎり参加しています。東白川村に移住される方が増加しており、大変喜ばしいです。コロナ禍の影響もありますが、地元の方と移住者の方との交流を活性化していきましょう。

この会は、課題を解決し、何かを決めていく場ではなく、「自由」とお互いを「尊重」し合うことを大切に対話・交流を深める場です。とはいえ、課題もあり、決定しなくてはならない案件もいくつかあります。なかでも、「がんばる地域づくり補助金」については、申請がない状況が続いていますので、見直しを行います。また、「村の魅力」についても再編集していきます。

加盟している「日本で最も美しい村」連合は、定期的に審査が行われ、評価が満たされないと加盟できないこととなっています。その評価は4つの柱があり、村づくりにおいて常に意識しています。「世襲財産の保全・継承」「経済的自立」「住民参加の地域づくり」「リーダーシップ」となっています。東白川村は3回目審査を数年後に控えています。ひきつづき、持続可能な美しい村づくりを語り合い、実践していきましょう。

## 第2 事務局からの連絡

### 1 委員会の概要・今年の計画について

模造紙を使って説明と確認を行いました。

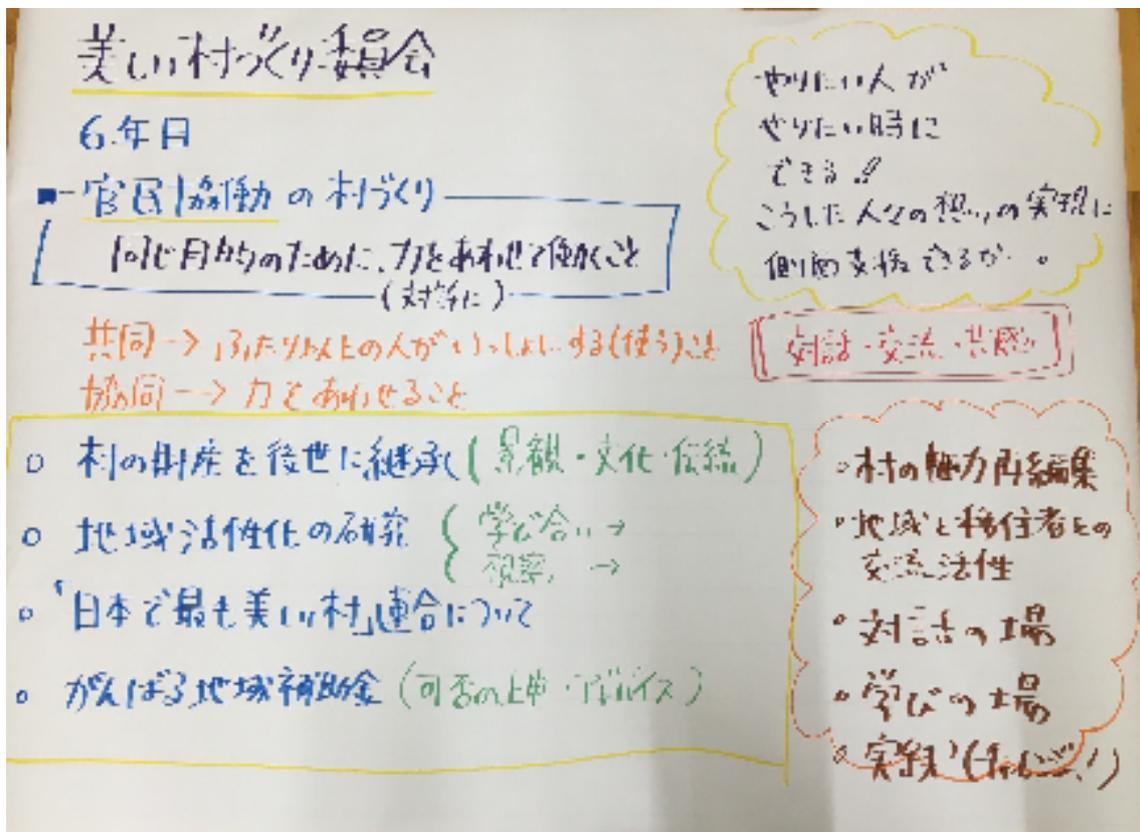
今年度もひきつづき、委員会は、①住民参加の場②交流・対話の場③学びの場という3つの場です。そして「持続可能な美しい村」を実現するための「住民と行政で共に学ぶ」をテーマに、「学びの場」と「対話の場」を設け活動していきます。

特に委員会では、「自由」と「尊重」を大切にしていきます。

そのような対話の場を行っていくには以下の4点が重要となります。

- ①参加者の主体性・自発性・自立性によって活動が展開すること。
- ②他者に対して活動を強制しないこと。
- ③個人の資格で参加すること。
- ④多様な主体が参加すること。

対話、交流、共有、共感からワクワクが創出すると考えています。



## 2 第3回美しい村づくり講演会のふりかえり

事務局より模造紙を使って講演会のふりかえりを行いました。

令和4年3月19日に「自然（じねん）に暮らす。美しい村づくりが目指すもの」を演題に、2021年8月に「自然（じねん）の哲学。おカネに支配された心を解放する物語」を出版された名古屋大学大学院環境学研究科教授の高野雅夫先生による講演会を開催しました。

美しい村  
づくり  
講演会 the 3rd  
東白川村  
4998

じねん  
自然に暮らす  
美しい村づくりが目指すもの

3/19(土)  
開演19:00 開場18:30 終演20:30

講師 高野雅夫さん

場所: 山形のさ別館ふれあいホール  
対象: ほとんどもだも / 入場無料 / 定員50人

～山山からはじまる持続可能な未来～

◇第1部: 講演  
成人食から縁が繋ぐ、その先、持続可能な社会へ、東白川村をはじめ、移住者が集まる全国の「ホットスポット」と新しい村づくりが文化が生み出されています。移住者と地元民との関係は、異文化の出会い、そして生まれる新しい感性が美しい村をつくります。

◇第2部: 村社会インタビュー  
講師の高野さんが移住者、移住の経緯や東白川村、求むらうら暮らしをしているか、村を感じているか等をインタビューしながら、山山からの村の暮らしを伝えます。

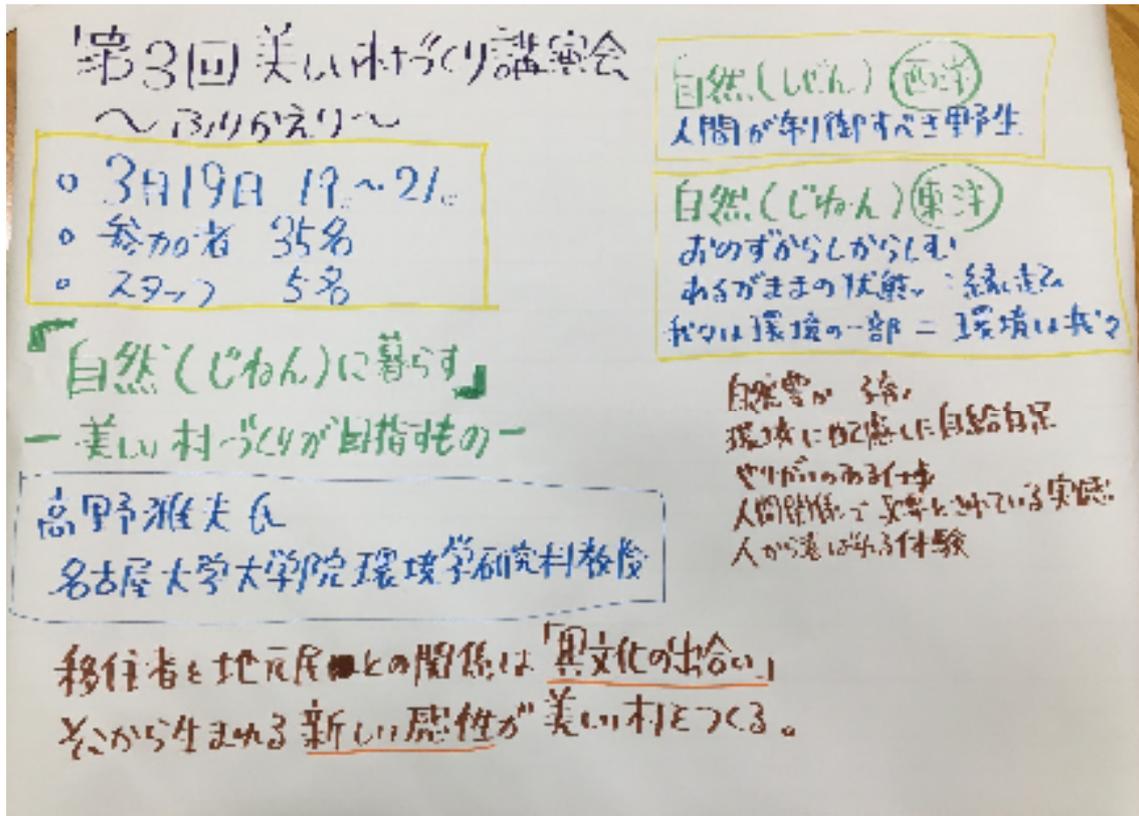
3月18日(金)までに、電話かメール、webで、氏名、住所、電話番号をお伝え下さい。

高野 雅夫 (たかの まさお)  
名古屋大学大学院環境学研究科教授・博士(理学)  
木質バイオマスエネルギーやマイクログリッドなどの再生可能エネルギーの技術開発とそれらの普及を推進し山山青年について山山村をフィールドとして研究を行なう。青年の論(エネルギー)を普及させるには豊田が自然資源が存在する農村村の持続しなくてはならないのか、人口減少との関係によって農業の成長が進む村に直面していることを知る。そこで、愛知県豊田市の農村村卸や木質エネルギー、その条件を以て中心とした山山村環境青年の研究および実践に取り組み。

新書 ヘウレーカ、2021年  
『自然（じねん）の哲学  
—おカネに支配された心を解放する里山の物語』

お申込み先 東白川村役場総務課企画財政係  
TEL: 05/4178-3111(内線245) FAX: 05/4178-3099  
E-mail: 507@sumi@vill.higashihirakawa.gifu.jp  
主催: 東白川村

※感染対策を実施している場合があります。  
webからの申込みが優先です →  
<http://logon.jp/w/01X>



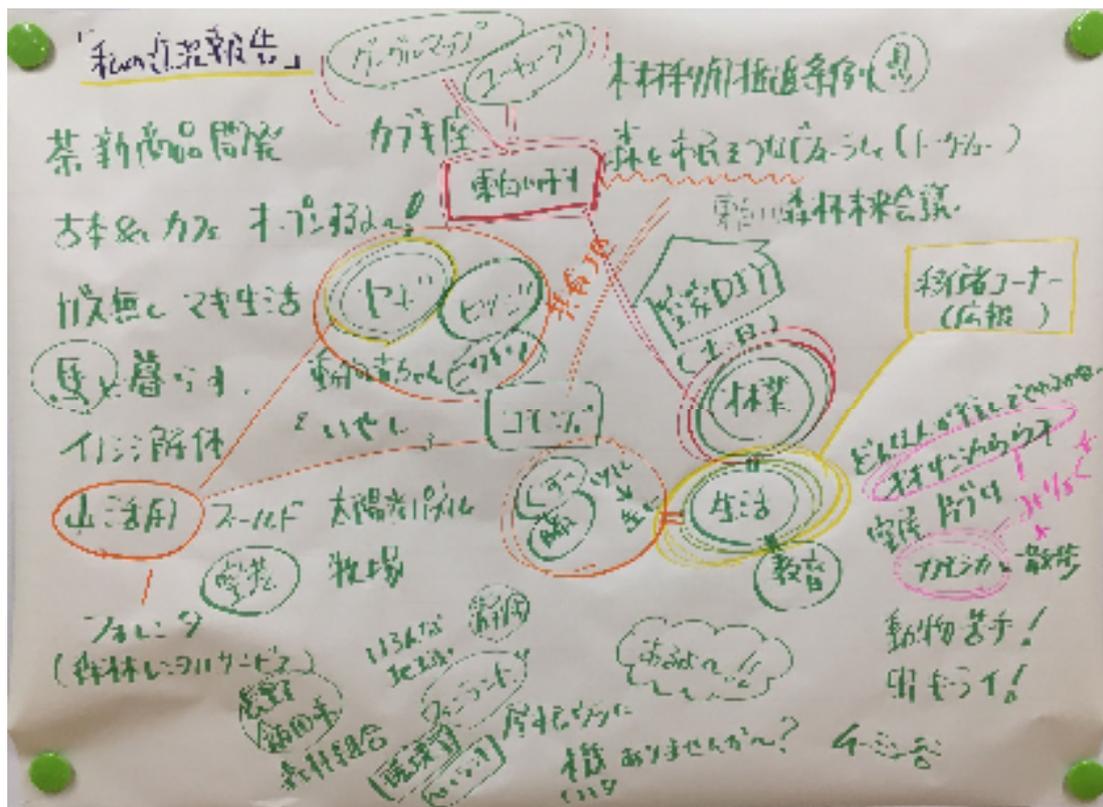
### 第3 移住定住事業について

担当の高野さんより、口頭で状況報告が行われました。

移住相談件数、現地見学数、成約件数ともに右肩上がりで、空き家バンクへの物件登録の問合せも増えているとのことでした。また、移住目標数を大幅に超えていて、まさに移住ホットスポットとなっています。村では、空き家の寄附を受け付けており、その寄附物件を村民の方に優先して情報案内する取組みも行っています。このように、東白川村の移住定住事業は、IターンやUターンの方のみが恩恵を受けるものではなく、村内在住の方にも対象となる仕組みとなっています。また、空き家の寄附を受け、荷物の片付けも行っており、地域の困りごとの解決と定住施策が両輪となり、持続可能な美しい村づくりとなっています。委員会では、移住者と地域が、移住者と移住者が円滑につながるサポートを行っていきます。

#### 第4 雑談から生まれるワークショップ「私の近況報告」

雑談ワークショップの前にアイスブレイクも兼ねて、村の特産物である新茶の2種類のみ比べとおいしい煎茶の淹れ方を体験しました。今回は、新任の地域おこし協力隊3名と新規移住者のご夫婦が初めて参加され、活気ある雑談ワークショップとなりました。



以上